

いた表情を示した。最小値の笑顔を選んだ理由を答えなかった。5歳男児（O13：採血経験3回以上）は、説明を受けた後、協力的な行動がみられた。通院歴が長い6歳女児（O5：採血経験3回以上）は、採血中も冷静な表情をみせ、採血後「全然痛くなかった！」と答え、穏やかな顔で最小値の笑顔を選んだ。3歳男児（O7：採血経験なし）は説明を受けた後、採血実施中も「仮面ライダーとトッキウウージャー好き」と話し終始落ち着いた態度を示した。

FRS：普通顔2点を選択した4歳女児（O14：採血経験3回以上）は、淡々と採血を受けていた。

FRS：少し曇り顔3点を選択した4歳男児（O1：採血経験1回）は、説明を受けて落ち着いた表情を見せた。4歳女児（O2：採血経験2回）は、説明後自ら手を伸ばしたが、直ぐに抵抗を示した。採血後は落ち着いた表情を見せた。母親の記述に「注射が何よりも苦手です」があった。

FRS：曇り顔4点を選択した3名は、4歳女児（O10：採血経験1回）、6歳男児（O12：採血経験2回）、5歳男児（O15：採血経験1回）であった。

FRS：泣き顔5点を選択した3名は、5歳男児（O4：採血経験3回以上）、3歳女児（O8：採血経験1回）であった。採血経験がない子どもの2人のうちのひとりである5歳男児（O11：採血経験なし）は、説明前から強く啼泣し抵抗した。採血終了後、速やかに5点の顔を選択した。

FRS 最大値の大泣き顔6点をつけた4歳男児（O6：採血経験1回）は、処置室に入室直後にスピッツ（真空採血管）を見つけて泣き始め「イヤー、イタイー、ヤメテー」と絶叫した。医師が声をかけても耳に届かない様子であったため、看護師に抱き上られ処置台に誘導された。採血終了5分後も緊張した硬い表情を示した。母親の記述に「今月予防接種（インフルエンザ）時に大泣きして暴れて大変だった」があった。

(2) 非オノマトペ群について

FRS 最大値の大泣き顔6点をつけた子どもは9名（実際に啼泣行動を示したのは3名）であり、そのうち採血経験がなかった6名中5名がこの大泣き顔を選んだ。

3歳女児（N3：採血経験なし）は、相手の声が届かないほど泣き叫び、採血終了5分後母親が抱っこしても泣き止まなかった。4歳男児（N7：採血経験3回以上；7～8回）は、処置室に入った途端「注射イヤー」と泣き続け、採血終了5分後も緊張した表情がみられた。4歳女児（N15：採血経験1回）は「ママー、ママー、注射イヤー」と泣き叫び、終了後も緊張が続いた。採血経験がなかった4名（3歳男児：N1、5歳男児：N4、3歳女児：N8、4男児：N14）、

および、採血経験回数 1 回の 2 名（3 歳男児：N13, 4 歳女児 N5 :）には、実施中抵抗するような行動はなかったが、採血終了後に FRS を尋ねると、迷うことなく最大値の大泣き顔を選んだ。

FRS：普通顔 2 点を選択した 4 歳女児（N12：採血経験 1 回）は、説明を受ける前から表情の変化はなく落ち着いた対処行動であった。

FRS：少し曇り顔 3 点を選択した子どもは 2 名であった。採血経験がない幼児のうち、ひとりだけ最大値の大泣き顔を選択しなかった 3 歳女児（N2）は、実施中緊張した様子がみられた。4 歳女児（N11：採血経験 3 回以上）は、途中緊張した表情を見せたが、採血終了後、少し曇り顔を選択した理由として「最初泣いたけど、あと泣かなかった」と答えた。

FRS：曇り顔 4 点を選択した 3 歳男児（N6：採血経験 1 回）は、説明前から笑顔で元気がみられた。採血中の対処行動に大きな変動はみられなかった。

FRS：泣き顔 5 点を選択した子どもはいなかった。

FRS：最小値の笑顔 1 点をつけた子どもは、4 歳男児（N9：採血経験 3 回以上；4～5 回）と 5 歳女児（N10：採血経験 3 回以上）の 2 名であり、説明前から非常にリラックスした表情と態度を示していた。

6) 子どもが示した痛みの主観的評価と各測定指標との相関関係 (Table 6・13)

オノマトペ群において、FRS と各測定指標と有意な相関がみられなかった。

非オノマトペ群では、オノマトペ群とは異なり、FRS と FLACC の採血前、採血直後、採血終了 5 分後との間、FRS と情緒スコアの採血直後との間、FRS と協力行動スコアの採血直後との間に有意な相関関係が認められた ($p < .05$)。

Table 6・12 オノマトペ群と非オノマトペ群による FRS と採血経験回数、観察された情報







FRS	オノマトペ群			非オノマトペ群		
	年齢性別	採血経験回数	情報	年齢性別	採血経験回数	情報
1点 	3歳男:O7	なし	母親付添い、夜間救急外来受診、高熱、右頸部腫れ、腹痛。中待室で嘔吐、採血中「仮面ライダーとトッキュウジャー好き」と話す。	4歳男:N9	3回以上	母親と祖母の付添い、予定採血、10時より脳波検査予定。
	3歳男:O9	1回	母親付添い、妹を抱っこ、電車が好き、先にエコー実施時点で泣き叫ぶ「ヤダーヤダー」看護師2名で対応した。終了後、迷わず笑顔を選択。理由を尋ねると「泣いたけど泣き止んだから、がんばったから、このお顔！」と答えた。	5歳女:N10	3回以上	母親付添い、「ハレは先生が嫌いで辞めた。ピエロは大好き」母親:〇〇病を心配していたが、結果は問題なし。
	5歳男:O13	3回以上	採血後点滴留置、咽頭培養、母親付き添い、泣かない。			
	3歳女:O3	3回以上	採血後点滴留置、吸入、母親付き添い、待合室で寝たまま処置室に入室、泣いて暴れる。			
	6歳女:O5	3回以上	母親と妹と来院、神経外来の予約診察、キイチちゃん、ブリキア好き。「全然痛くなかった」と笑顔で答える。			
2点 	4歳女:O14	3回以上	父親付添い「感受性が高い子」(父弁)	4歳男:N12	1回	祖父付添い。
3点 	4歳男:O1	1回	母親付添い、発熱と咳が続いている。	3歳男:N2	なし	父親付添い
	4歳女:O2	2回	父母付添い、拒否反応有「注射が何よりも苦手です」(母記述)	4歳女:N11	3回以上	母親付添い、「最初泣いたけどあと泣かなかった」本人弁
4点 	4歳女:O10	1回	母親付添い、1週間発熱が続いている。	3歳男:N6	1回	母親付添い、妹一緒に来院。笑顔が多く元気いっぱい。
	6歳男:O12	2回	母親付添い、弟と共に受診。			
	5歳男:O15	1回	母親付添い、インフルエンザA型、一時解熱したが再燃、咳有			
5点 	3歳女児:O8	1回	母親付添い、「ママ、ママ」と泣き叫んでいる。			
	5歳男児:O11	なし	祖母付添い、採血前、暴れて抵抗が激しい。			
	5歳男児:O4	3回以上	母親付添い、米国より帰国、泣き叫んでいる。			
6点 	4歳男:O6	1回	母親付添い、2日前より左膝に痛みあり、小児科受診後、整形外科診察。処置室に入り、ステツを見るなり大泣き始めた。「イヤー、痛い、ヤダー」何もしないうちから泣き叫ぶ。語りかけても耳に届かない様子。抱っこしてベッド上に横になってもらう。マジローの人形を抱える。かなり激しく抵抗、暴れる「今月、予防接種(インフルエンザ)時に大泣きして暴れて大変だった」(母記述)。	3歳男:N1	なし	母親付き添い
				3歳男:N13	1回	母親付添い、抱っこ紐で来院、採血後、点滴、咽頭培養、吸入、ノドゲン、吸入(2回目)。FRSは顔を1つ1つ母親が尋ねていくとハッキリと一番痛かった顔を選ぶ。
				4歳男:N7	3回以上	処置室に入るなり泣き続け叫んでいる。「注射イヤー」終了後ご褒美シールも要らないという。「トッキュウジャーが好き。」
				4歳男:N14	なし	母親付添い
				5歳男:N4	なし	採血後点滴留置、咽頭培養、母親付き添い。予防接種も泣かないことが多い(母弁)。
				3歳女:N3	なし	母親付き添い、全身発疹、顔面水泡、眼脂あり。鼻上びらん、泣き叫んでいる。
				3歳女:N8	なし	母親付添い、イクラで目瞼の腫脹、発赤あり。今日は問題ない。卵と牛乳は嫌い。
				4歳女:N5	1回	母親付添い、診察室で実施。採血後、咽頭、鼻腔培養施行。
				4歳女:N15	1回	母親付添い、兄と一緒に受診、「ママママ」と泣き叫ぶ。

Table 6 - 13 オノマトペ群, 非オノマトペ群の FRS と各測定指標との相関関係

FRS との相関係数	SpO ₂			HR			FLACC			情緒スコア			協力行動スコア		
	前	直後	5分後	前	直後	5分後	前	直後	5分後	前	直後	5分後	前	直後	5分後
オノマトペ群 (n=15)	-.039	-.135	-.337	.203	.178	.203	.406	.387	.035	.348	.391	.093	.348	.260	.093
非オノマトペ群 (n=15)	.512	.432	.180	.512	.432	.180	.743**	.518*	.520*	.621*	.577*	.390	.700**	.684**	.390

Spearman の順位相関係数, * $p < .05$, ** $p < .01$

第4節 考察

まず、採血を受ける幼児に対するオノマトペの介入効果を、仮説に沿って考察する。次に、介入研究に関する問題点を考察する。

1 オノマトペによる介入の効果

1) 幼児の苦痛へ与える影響

幼児の苦痛を測定する、FRSの結果では、オノマトペ群の子どもの示した痛みが非オノマトペ群と比較して有意に低いことが示された。両群の背景をみると、非オノマトペ群に初めて採血を受ける子どもが6名おり、そのうち5名が大泣き顔を選択していたことから採血経験回数による影響ではないかと思われた。先行研究 (Guducu, Celebiogulu, & Kucukoglu, 2009)では、過去の採血経験が1~3回だと恐怖心が強く4回以上はあまりないという指摘があったが、今回の場合、対象者全員が予防接種の経験を持っていた。採血経験がなくても注射針を刺入する経験を有しており、採血に入る前に子どもはその違い(採血と注射)を理解できる状況にないことから採血回数(0~3回以上)は影響しないと考えられる。また、評定者による子どもの痛みの行動評価である、FLACC、および評定者の観察情報からオノマトペ群のほうに緊張のみられる子どもが多いことが示された。このように、拒否的反応を示した子どもが多かったオノマトペ群のほうに痛みが低減されたことから介入の効果と考えられた。ベースラインの差異が結果に及ぼした影響は否定できないが、それぞれの子どもの効果がみられており、本結果は筆者を含む多くの看護師の臨床での経験とも合致する。

個々の子どもに注目すると、オノマトペ群に採血実施前から実施中にかけて極度の興奮がみられたにもかかわらず、終了後、笑顔のイラストを選択した子どもがいた。本児の「泣いたけど、がんばった」という自分を認める発言から子どもなりに採血体験をポジティブに受け止めていることがわかった。吉田・檜木野 (2012)は、点滴・採血を受ける幼児後期の子どもの【頑張れた自己の認識】に至る過程から子どもの自己調整機能の存在を説明している。子どもが自分の体験を肯定的に受け止めることができれば、次の処置場面での主体的な対処行動が期待できる。オノマトペを用いたことばかけが子ども自身の頑張りを促し、自己調整機能を発揮することに繋がるとすればその有用性は高い。子どもの主観評価において有意差が認められたFRSと各測定指標との相関関係では、非オノマトペ群のFLACC、情緒スコア、協力行動スコアとの間に高い相関関係がいくつか確認された。オノマトペ群では、FRSとこれらの客観的評価が異なる傾向を示しており、FRSは他の行動評定よりも子どもの苦痛の本質を正確に表わし

ていたことが考えられる。生理的指標である SpO₂ の結果では、非オノマトペ群により苦痛を示す結果である 2% 弱の低下が認められたが有意差はみられなかった。しかし HR の結果では、オノマトペ群に HR が下がる傾向がみられ、非オノマトペ群にはそのような傾向がみられなかったことからオノマトペによる介入効果の可能性として考えることができる。これらの結果を総合するとオノマトペの説明マニュアルを用いることによって幼児の苦痛が軽減する、という仮説 1 は支持されたとと言える。

2) 幼児の協力行動へ与える影響

幼児の協力行動を測定する、協力行動スコアではベースラインの時点でオノマトペ群のほうが非オノマトペ群に比べて抵抗を示す子どもが多かったが、採血直後、採血 5 分後へと協力的態度の割合が増加していた。一方、非オノマトペ群は、採血前に比べて採血直後に抵抗する割合が増加していたことから介入の効果と考えられた。採血直後は抜針した穿刺部を強く圧迫し止血を行っており、処置の痛みが続いている段階である。両群とも極度に興奮した割合が比較的高いことから穿刺時の痛みに関連して子どもの協力的行動が低下したと考えられる。採血直後の結果では、協力的態度を示す子どもの割合が非オノマトペの 33% に対してオノマトペ群は 53% と多く、介入の有効性が示唆された。しかし、ベースライン時点での差異が結果に与える影響も考えられる。また、幼児の行動の強さを評定する、反応潜時では、オノマトペ群が手を伸ばすまでの時間が短いことから介入効果と考えられるが、手を伸ばすことを拒否した子どもを除外した結果であるため解釈には慎重を要する。先行研究 (佐藤, 塩鮑, 2007) では、プレパレーションの効果として子どもが示した主観的痛みは弱まったが、痛みに対する行動に変化はなかったとしており、本結果を一部支持するものである。したがって、オノマトペの説明マニュアルを用いることによって幼児の協力行動が高まる、という仮説 2 は必ずしも支持されたとはいえないが、有益な情報を提供してくれたと考える。

3) 幼児の情動へ与える影響

幼児の情動を測定する、情緒スコアではベースラインの時点でオノマトペ群が非オノマトペ群に比べて不安を示す子どもが多かったが、採血直後、採血 5 分後に向かい有意に不安の割合の低下がみられ、採血終了 5 分後には不安なしの割合が 9 割弱を占めた。一方、非オノマトペ群は採血前に比べて採血直後に軽度の不安と極度の興奮の割合が増加しており、不安の低下は認められない。不安や恐れ of の指標としても使用できる (Babel, et al., 2012), FLACC の結果を

みると、ベースラインで不安や恐れが強い子どもが多かったオノマトペ群が採血直後から不安が低減されている。また、オノマトペ群において採血前と採血終了5分後に有意に情動が安定していることから介入の効果が示唆された。しかしながら、協力行動スコアの採血前に両群の差異が認められることから、情緒スコアと同様、解釈には慎重を要する。

両群に共通する多くの子どもは、採血実施中、啼泣しても採血が終わると落ち着いた表情を見せた。しかし、オノマトペ群にみられた子どもの中に聴く耳を持たないほど興奮し採血終了後もすすり泣きと不安定な情動が続いた子どもがいた。母親の記述から「今月、予防接種をして大泣きして暴れた大変だった」と1ヶ月以内の恐怖体験が記されており、この理由が大きいことが推察された。本児のように、医療従事者の声が耳に届かないほど抵抗を示す子どもに対してオノマトペの介入のみでは難しいことが考えられた。今後、ベースライン時点で心理的混乱の激しい子どもを除き、対象者数を増やすことでより安定した結果が得られる可能性が予測される。以上のことから、オノマトペの説明マニュアルを用いることによって幼児の情動が安定する、という仮説3は必ずしも支持されたとは言えないが有益な情報を提供してくれたと考える。

3 介入研究に関する問題点

第一に、対象者の選定にかかわる問題である。実験環境は臨床現場であり両群の条件を厳密に統制することは非常に困難であった。当該病院の小児科外来では、受診当日の子どもの病状から医師の判断により採血が行われた。研究者は、採血の指示が出された幼児を順番に振り分ける無作為化比較試験であり、事前に両群の条件を完全に均一化することは不可能であった。それは例えば、FLACCでの採血前（ベースライン）の差にみられる。また、子どもがこれまでの医療処置でオノマトペを用いたことばかけを受けていた場合、それが影響した可能性が考えられる。さらに、子ども自身が持つ気質の存在が指摘される。気質的特徴の気難しい子どもほど苦痛行動を示す報告がある（Lee & White-Traut, 1996；中村, 兼松, 小川, 1993）ことから、今後、保護者への聞き取り調査、子どもの気質や性格に関する質問紙調査など併せて実施していく必要がある。対象者数の問題も挙げられる。効果量から判断すると両群合わせて40例以上が望ましい。しかし、臨床現場での確保は難しく継続的な課題と言える。対象年齢については、先行研究に準じ3～6歳としたが、2歳児の理解度と持てる力（小笠原 檜木野, 2013）を考慮すると、今後対象年齢を広げて検討する必要がある。これにより、対象者数の増加も期待できる。

第二に、測定の問題である。生理学的指標としたパルスオキシメータの問題が指摘される。SpO₂は、体動や外界光の影響など条件によって正確な測定や数値予測ができないという欠点があり、HRも同様の誤差が指摘される（松井, 2011）。そこでは、HRが測定される動脈血の脈波成分について、光の成分の1~5%とされ、小児では低値となることがあると説明されている。このような測定値の変動による誤差の原因を除去するためには、データを連続的に記録できる機器を使用するなど対策が求められる。今回は、測定ポイントを3回（採血前、採血直後、採血終了5分後）に限定し設定したが、今後、採血実施前から実施後にかけて連続したデータを記録し、平均値を算出していく方法も検討する必要がある。また、客観的指標である、子どもの行動評定では、評定者が研究者であったことから、観察者バイアスの存在が指摘される。これは、観察者が見出すことを期待している行動を強調しすぎて、それ以外の行動に気づかないという測定における誤差を指す。今回は、事前準備として予備調査と本調査を加えて9例について2名で判定し評定者間の一致率を経ていることから、一定の手続きを踏み実施されたと評価できる。しかし、さらに評定の信頼性を高めるためには、研究者とは異なる評定者を設定することが必要である。加えて、評価の妥当性、信頼性を確保するためには複数名での判定が望ましいと言えよう。

第三に、対照群として用意した、非オノマトペ群の教示文の問題である。オノマトペ群の「チクン」の対比として使用した「針を刺す」という表現は子どもにとって、より恐怖をイメージさせる刺激的表現である可能性を否定できない。この場合、ことばの持つ感情価の統制への配慮が必要であったと考える。本問題を解決するためには、「血」「針」「刺す」というネガティブな感情価を伴う表現が幼児にどのような影響を与えるのか、また、「チクン」が子どもに与える感情価の程度を予備調査で検討し実験に臨むことが求められる。しかしながら、採血場面での幼児への説明において、成人語とオノマトペの間に中立のニュートラルなことばは見当たらず、検討された教示文は、医療現場で実際に使用されていることばであることに間違いない。今回の場合、むしろオノマトペを使用しなければ、このような成人語を使わざるを得ない状況が考えられ、間接的でありながらオノマトペの有益性を示唆しているものと受け取ることができる。

第7章 総合的考察

第1節 本論文のまとめ

本論文は、オノマトペを用いたプレパレーションを実施し、医療処置を受ける幼児に与える影響を明らかにすることを目的に、医療処置場面で使用されているオノマトペを調査し、採血を受ける幼児への説明マニュアルを作成し、その効果を検証した。本論文で明らかとなったことを、章の流れに沿ってまとめる。

第2章では、医療処置を受ける子どもにかかわる看護師の発話を調査し、特徴的なオノマトペの出現を確認した。先行文献（藤野,2012；田守,スコウラップ,2011；吉村 関口,2006）の検討から、オノマトペが、状況喚起力、身体性、心情融和性を持つ有用なことばである可能性を考察した。また、看護師の発話から抽出されたオノマトペは〔動作〕を利用した働きかけが多いことが示され、それは、保育現場で子どもの動きを促進する保育者の効果的なかわり（近藤,渡辺,,2008）と一致するものであった。看護師は、医療処置に向かう幼児の行動を的確に促すためにオノマトペを効果的に使用していると推察された。

第3章では、小児病棟の看護師以外でオノマトペの出現がみられるのかどうかについて看護学生を対象に検討した。その結果、小児病棟実習後の看護学生のことばに看護師と同様、特徴的なオノマトペの出現が明らかとなり、研究1を支持する結果を得られた。

第4章では、第2章、第3章で抽出された共通のオノマトペを手がかりに、採血を受ける幼児へ説明することばについて、医師・看護師を対象に全国調査を行った。その結果、採血手順の説明ではオノマトペの使用頻度が高く、また、全国的に統一性のあるオノマトペが使用されていることが明らかとなった。採血場面で使用されているオノマトペに、ほとんど地域差がみられないことから、採血を受ける幼児へのオノマトペの標準的説明マニュアルが作成された。また、オノマトペ使用に対する意見を自由記述で求めた結果、「理解しやすい」「安心できる」など、肯定的なイメージで受け止められていることが示された。しかし一方で、「正しい言葉ではない」「親が幼稚な言葉を不快に感じるかもしれない」など、否定的意見も一部みられた。オノマトペを使用することで子どもにマイナスの影響を与えるかもしれないという思いが医療従事者にあるとすれば、積極的な使用を控えかねないことから、その有効性を立証する重要性があらためて示唆された。

第5章では、オノマトペに対する医療従事者のイメージを測定する「小児医療オノマトペ活

用評価尺度」を作成した。本尺度は、オノマトペに対する肯定的イメージ因子とオノマトペの獲得意識の2因子構造であり、全16項目で構成され、臨床現場で簡便に利用できるものである。本尺度を用いてオノマトペ使用に対するイメージを評価できることで、前述のようなマイナスイメージを持つ医療従事者への教育的な取り組みなど、今後、オノマトペの実践的普及へ向けて活用できることが期待された。

第6章では、採血を受ける幼児を対象に、オノマトペの標準的説明マニュアルを用いたプレパレーションを試み、介入効果を実験的に検証した。その結果、オノマトペを用いた説明をすることで、幼児の苦痛が低減することが明らかとなり、介入の有効性が実証された。一方で、幼児の情動や協力行動に与える影響では、必ずしも痛みを低減と連動するとは限らなかった。本結果は、子どもが示した主観的痛みは弱まったが、痛みに対する行動に変化はなかったという先行研究における結論（佐藤、塩飽, 2007）と符合する。

採血実施前から実施中にかけて極度の興奮がみられた子どもの発言に「泣いたけど、がんばった」と、採血体験をポジティブに受け止める姿がみられた。このように、必要な医療処置を「がんばれた」という達成感や満足感は子ども自身の回復力に繋がることが考えられる。

プレパレーションの基本概念（Thompson & Stanford, 2003）には、子どもの情緒的表出を後押しするという目的がある。子どもが医療処置を受けるとき、泣かないことが必ずしも望ましいこととは限らない。子どもは、つらい医療処置を目前にして泣くことによって折り合いをつけることもあるだろう。大切なのは、医療処置を終えた後に残る子どもの思いや感情を捉えることではないかと考える。研究5の特筆すべき結果は、子どもにとって、「痛くなかった」と思える医療処置は子ども自身が「がんばった」と思えることと関連があるかもしれないという点である。オノマトペを用いることで、このような子どもの対処行動が高められたとすれば、その有用性は高い。オノマトペを用いた説明が、吉田、檜木野（2012）による幼児後期の【自己調整機能】を支援するかわりとなり、採血に向かう子どもの努力を意図的に支援することに繋がることが考えられ、その効用は高いと言えよう。

第2節 オノマトペの説明マニュアルの適用

オノマトペ説明マニュアルは、看護師へのインタビュー調査、看護学生への質問紙調査、医師、看護師への全国調査をもとに必要なオノマトペを選択し、介入研究用に作成されたものである。採血手順に沿ったオノマトペを用いた説明は、子どもにとって、わかりやすく、状況喚起力、身体性、心情融和性を持つ表現という特徴がある。オノマトペの説明マニュアルの妥当

性については、幼児を対象とした介入実験において検討された。オノマトペの有効性が明らかとなったことで、初めて臨床現場で根拠を持ち利用することが可能となったと言える。具体的な説明マニュアルにより、誰にでも、簡単に、的確に、事前準備することなく、小児医療現場で容易にプレパレーションを実施することが可能となる。標準的なオノマトペ説明マニュアルの作成は、小児医療における重要な貢献と考えられる。以下に、今後、オノマトペの説明マニュアルの実用化に向けたプロセスに必要な方略を考える。

第一に、対象年齢について、先行研究を参考に3～6歳としたが適用範囲を再検討する必要性が示唆された。研究3では、2歳頃からみられる多語文の時期を下限に就学年齢以下を強調し幼児後期における5歳を上限に調査を行った。2歳児の理解度と持てる力（小笠原 檜木野，2013）を考慮すると、対象年齢の下限の拡大が可能である。また、一般的に就学年齢以降の子どもには成人語で対応することが多いことから、上限の年齢設定の検討も考えられる。本論文は、医療処置を受ける子どもに説明することばをすべてオノマトペに換言することを推奨するものではない。子どもの発達段階に考慮した実践可能な説明方法の工夫（橘，宮城，2014）が重要であり、オノマトペの適用は発達年齢に応じて効果的に使用することが望ましいと考える。子どもの年齢、オノマトペの種類、オノマトペと成人語の比率など、オノマトペの説明マニュアルを検討する上で重要な課題がある。また、オノマトペが子どもの対処行動へ与える効果を検証するために、同一被験児への介入研究も考えられる。

第二に、オノマトペを用いて説明する際の言語的・非言語的行動について、医療従事者の声の調子、リズム、間の取り方、笑顔や仕草など、少なからず子どもに影響を与えるであろう要素が挙げられる。オノマトペは、それを使うことで子どもが安心できるような表情や雰囲気醸成し出し、親和性や親近感をもたらすような付加的要素があるのかもしれない。オノマトペを使うことによって、子どもとのコミュニケーションに必要な技術が醸成される可能性が考えられる。小児科における有能な看護師の中には、現場での経験を通じて、あるいは一種の才能としてこのような技術を既に獲得している者がいることも確かであり、研究5に類する実証研究によって、そのような技術の本質が明らかになり医療従事者の間で共有化されることが望まれる。

第三に、医療現場で利用するために必要な媒体である。医療従事者にとって、臨床現場で扱いやすく、簡単に活用できるリーフレットやパンフレットが考えられる。それはまた、実施する医療従事者ばかりでなく、対象である子どもと共有することで子ども自身の理解に繋がる。視覚教材としては、子どもの興味関心を引き、わかりやすい文字の大きさ、絵やイラストの挿

入など、創意工夫が必要である。以上のような課題を検討していくことで、今後、臨床現場で活用される有益なオノマトペ説明マニュアルが提案できると考える。

第3節 臨床的応用への提言

オノマトペの説明マニュアルは、採血を受ける幼児の苦痛を緩和することを目的として作成された。これは、これから行われる採血について子どもに理解してもらうことを前提にしたものである。これまで着手されてこなかったオノマトペに視点を置き、臨床における実験的研究を試み、その有用性が確認されたことは小児医療における新たな成果である。

本論文での研究3の調査結果の一部にみられたように、オノマトペは幼稚なことばであり、正しい表現ではないのではないかと、また、医療現場では子どもに対して説明を行うことでかえって子どもに緊張や不安をもたらすのではないかと、といったオノマトペに対する否定的なイメージから使用を躊躇する医療従事者の声が聞かれる。オノマトペは正確でありながらも子どもに過剰な不安や恐怖を生じさせない的確な表現であり、このような医療現場の懸念にも応えられる知見を提供してくれるものである。これまで、人形や絵本などのツールがなければプレパレーションができないという認識を持つ医療従事者にとって、オノマトペを用いた説明という簡単な方法で、プレパレーションの実施が可能となる。加えて、プレパレーションの実施を困難にしていた、時間と人員確保の問題、知識と方法の習得に対してもオノマトペを利用することで応えることができる。オノマトペの説明マニュアルがあれば、誰でも、容易に、必要時すぐに、プレパレーションを実施することができる。それは例えば、経験値の低いスタッフであっても熟練したスタッフと同様の技術提供を可能とする。また、利用できる場所は、研究5において検証した病院の外来に限らず、長期的に治療を要する入院児への活用も期待される。幼児後期特有の「病院へ行くのは自分が悪いことをした罰」という誤解 (Piajet, 2007) は、慢性疾患を持つ子どもにその傾向が強く、自己肯定感や自尊感情が低下しがちになると指摘されている (Rape & Bush, 1994 ; 田中, 2014)。入院児は、治療経過の中で侵襲度も異なる検査や処置を継続的に受けている。オノマトペを用いた介入は、外来受診場面の一回性の処置以外にも、継続的な治療を要する子どもの多回性の治療場面でも利用できる幅を有する。本論文での研究1・2で調査した、採血場面以外の医療処置については、作成に向けた取り組みが早急に望まれる。

さらに、このようなオノマトペの説明マニュアルは、小児医療を超えた心理臨床での幼児へのカウンセリングでの利用など、幅広い分野での活用可能性を有していると考えられる。小児

医療における新人看護師や初学者の看護学生の幼児とのコミュニケーション能力の向上に繋がるとともに広く全般的に医療従事者に適用されることで、幼児に対する共通表現として利用でき、幼児とその家族とのコミュニケーションによる医療行為の理解促進にも有用となる。オノマトペの活用は、1つの有効な社会資源として応用可能性は幅広く、今後の医療および看護領域で大きな貢献が期待できよう。

第4節 今後の課題

本論文では、医療処置を受ける幼児に多用されているオノマトペに着目し、臨床現場でのオノマトペの調査から、幼児用の標準的説明マニュアルを作成し、その効果について検討した。その結果、オノマトペを用いて説明をすることで幼児の苦痛の低減に繋がることが明らかとなった。子ども自身の対処行動を高めるオノマトペの効用が確認され、本研究で用いられた方法論に対する有効性は証明されたが、ここでは今後の課題について言及する。

まず、オノマトペの標準的説明マニュアルを、広く、臨床的に適用するためには、介入研究の結果から得られた精度の低さ、曖昧な点を改善した上で追試となる介入実験が必要である。また、介入時期の適切性の課題として、採血実施が決定された後、どの段階で子どもに説明することが妥当なのかについて検討することが必須である。次に、オノマトペの持つ音象徴性と地域性では、全国調査の結果から音象徴と地域社会の中で生きていることばとの関連性が考えられた。本方法論を一般化するためには、東日本とは異なる地域での検討が求められる。

さらに今後、オノマトペの普及に関わる教育的介入を検討する上で、看護学生と看護師の差異を明確にすることが必要と思われる。同一の研究方法で比較分析することで、より有用な方法論を見出すことになると考える。

以上の課題を検討することで、今後、医療処置を受ける幼児の苦痛を緩和し、子ども自身の対処行動を高めるために必要な具体的な支援を提供できるとともに、プレパレーションの実践的普及に貢献するための有用な示唆を得ることができると考えられる。

引用文献

- 阿部孝子. (2005). 小児病棟処理室でのプリパレーションにおける看護師の関わりと患児の反応の分析. 日本看護学会論文集 小児看護, 36, 351-353.
- American Academy of Pediatrics. (1971). Committee on hospital care. *Care of Children in Hospitals(2nd ed.)*.
- American Academy of Pediatrics. (2006). Child life services: child life council and committee on hospital care. *Pediatrics*, 117, 1757-1763. doi:10.1542
- 安東真由, 原依里, 栢山幸子. (2008). 腎生検を受ける幼児への DVD プリパレーションの効果. 日本看護学会論文集 小児看護, 39, 131-133.
- Babel, E. F., Crellin, D., Cheng, J., Sullivan, P. T., O'Sullivan, R., & Hutchinson, A. (2012). The use of the faces, legs, activity, cry and consolability scale to assess procedural pain and distress in young children. *Pediatric Emergency Care*, 28(12), 1281-1296.
- Bai, J., & Hsu, L. (2012). Pain status and sedation level in chinese children after cardiac surgery: an observational study. *Journal of Clinical Nursing*, 22, 137-147.
- Bijou, W. S. (1996). Refrctions on some early events related to behavior analysis of child development. *Assn for Behavior Analysis international*, 19(1), 49-60.
- 文化庁. (2012年3月). 平成24年度「国語に関する世論調査」の結果の概要. 参照先: 国語施策・日本語教育: http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/
- Caprilli, S., Vagnoli, L., Bastiani, C., & Messeri, A. (2012). Pain and distress in children undergoing blood sampling: effectiveness of distraction with soap bubbles: a randomized controlled study. *Italian Journal of Pediatric Nursing Science*, 4(1), 15-18.
- Cassell, S. (1965). Effect of brief puppet therapy upon the emotional responses of children undergoing cardiac catheterization. *Journal of consulting psychology*, 29(1), 1-8.
- Caty, S., Elerton, M., & Ritchie, A. J. (1997). Use of projective technique to assess young children's appraisal and coping responses to a venipuncture. *Journal of Society of pediatric Nursing*, 2(2), 83-92.
- Chen, F. M. (2003). Pain assessment for infants and children. *Nursing Foreign Medical Science*, 22, 289-290.

- 蛭名美智子.(2000). 検査・手術を受ける子どもへのインフォームド・コンセントー看護の実態とケアモデルの構築ー. 平成9・10・11年度科学研究費補助金研究報告書, 59-67.
- 藤野良孝.(2012). スポーツオノマトペの運動リズムを基にした柔道学習ビデオの検討. 情報学研究, 21, 1-8.
- 藤野良孝, 井上康生, 吉川政夫, 仁科エミ, 山田恒夫.(2006). 運動学習者のためのスポーツオノマトペ電子辞典の開発と評価. 日本教育工学会論文誌, 29(4), 515-525.
- 藤野良孝, 井上康生, 吉川政夫, 堀江繁, 仁科エミ, 山田恒夫, 匂坂芳典.(2005). スポーツオノマトペの実態について. 東海大学スポーツ医科学雑誌, 17, 28-38.
- 深田智.(2013). 絵本の中のオノマトペ. オノマトペ研究の射程 近づく音と意味, 183-199. (篠原和子, 宇野良子, 共同編集) ひつじ書房.
- 福田香苗, 苧坂直行.(1992). 擬音語・擬態語の認知 (16) ーK児の3歳6か月時の観察記録よりー. 日本心理学会第56回大会発表論文集, 814.
- 古橋知子, 平田美佳.(2012). チームで支える! 子どものプレパレーション (初版). (及川郁子, 編) 文京区, 東京都: 中山書店.
- 古市久子.(2012). 絵本がもつリズム性がこどもに与える教育的意味. 東邦学誌, 41(1), 109-125.
- Gaynard, L., Goldberger, J., & Laidley, L. N. (1991). The use of stuffed: body-outline dolls with hospitalized children and adolescents. *Children's health care*, 20(4), 216-224.
- Gaynard, L., Wolfer, J., & Goldberger, J. (n.d.). Psychological care of children in hospitals. *A clinical practice manual from the ACCH child life research project. Child life council, Inc*, 93-110.
- Gilboy, S., & Hollywood, E. (2009). Helping to alleviate pain for children having venipuncture. *Pediatric Nursing*, 21(8), 14-19.
- Guducu, F. T., Celebiogulu, A., & Kucukoglu, S. (2009). Turkish children loved distraction: using kaleidoscope to reduce perceived pain during venipuncture. *Journal of Clinical Nursing*(18), 2180-2186.
- 半田浩美, 二宮啓子, 蛭名美智子.(2006). CTやMRI検査を受ける幼児後期のこどもに模型を用いた心理的準備ー子どものイメージづくりを促進する効果的な看護介入と看護師の変化ー. 日本小児看護学会誌, 15(1), 32-39.
- 半田浩美, 二宮啓子, 西平倫子.(2008). 心臓カテーテル検査を受ける幼児後期の子どもへの模型と人形を用いた効果的なプレパレーション. 日本小児看護学会誌, 17(1), 23-30.

- Hands, C., Round, J., & Thomas, J. (2010). Evaluating venipuncture practice on a general children's ward. *Pediatric Nursing*, 22(2), 32-35.
- 原田千枝, 吉村真理, 矢野和代, 田上亜紀, 若狭郁子. (1996). 患児への看護婦からの言葉がけの分析. 日本看護学会論文集 小児看護, 27, 29-31.
- 橋本浩子, 谷洋江. (2009). 点滴・採血を受ける血液・腫瘍疾患の子どものストレス状態とプレパレーション時の反応および処置中の行動. 日本小児看護学会誌, 18(1), 65-71.
- 橋本ゆかり, 杉本陽子. (2007). 静脈麻酔下で髄腔内注入を受ける小児がんの子どもの認知に影響を及ぼす医療者の関わり—処置前・中・後を通して行った介入から—. 日本小児看護学会誌, 16(1), 33-39.
- 橋本ゆかり, 杉本陽子, 蛭名美智子, 楢木野裕美, 今野美紀, 松森直美, . . . 岡田洋子. (2014). 採血・点滴を受ける子どものプレパレーションに関する看護師の意識調査—年齢階級別による実施中の関わりについて—. 小児保健研究, 73(3), 446-452.
- 服部兼敏. (2010). テキストマイニングで広がる看護の世界. ナカニシヤ出版.
- 服部兼敏. (2010). 看護における日本語オノマトペ. 看護研究, 43(4), 315-323.
- 早川勝弘. (1981). 育児語と言語獲得. 言語生活, 50-56.
- 平野由貴子, 北林香子. (2005). 幼児入院患児に対するプリパレーションの効果—子どもの意思を尊重した採血場面の介入方法—. 日本看護学会論文集 小児看護, 36, 357-359.
- 平田美紀, 流郷千幸, 古株ひろみ, 松倉とよみ, 鈴木美佐. (2012). 家族が付き添った場合の幼児の採血に対する対処行動の観察分析. 聖泉看護学研究(1), 29-35.
- 平田佐智子, 喜多伸一. (2010). オノマトペ・音韻象徴はコミュニケーションに貢献するか. 電子情報通信学会論文集, 25-26.
- 平田佐智子, 秋田喜美, 小松孝徳, 中村聡史, 藤井弘樹, 澤井大樹. (2012). オノマトペに対する意識の地域比較. 第26回日本人工知能学会全国大会論文集, 1-4.
- 平田佐智子, 中村聡史, 小松孝徳, 秋田喜美. (2013). 国会会議録コーパスを用いたオノマトペ使用の地域比較. 第27回日本人工知能学会全国大会論文集, 31(10).
- 平山輝男. (1996). 日本の方言. 東京都: 講談社.
- 平山輝男. (1993). 現代日本語方言大辞典. (柴田武, 編) 明治書院.
- 本間喜子. (2014). 単語の感情価にもとづいた単語刺激の作成. 愛知工業大学研究報告(49), 13-24.
- 本間瞳子, 植松展世, 藤谷美奈. (2003). ビデオを用いた点眼のプレパレーション—点眼への心

- 理的準備と不安の軽減ー. 大阪府立母子医療センター雑誌, 19(1), 38-41.
- 堀科. (2010). 保育学における「感性的言語」表現の妥当性を探る. 川口短期大学紀要, 24, 109-121.
- 星野和子. (2005). 擬態語の文法. 駒沢女子大学研究紀要, 12, 185-198.
- Huff, L., Hamlin, A., Wolski, D., McClure, T., & Eliaders, B. A. (2009). Atraumatic care: EMLA cream and application of heat to facilitate peripheral venous cannulation in children. *Pediatric Nursing*, 32, 65-76.
- Hughes, T. (2012). Providing information to children before and during venipuncture. *Qualitative Research*, 24(5), 23-28.
- 日向重雄. (1991). 擬音語・擬態語の読本. 小学館.
- 飯村直子, 筒井真優美, 込山洋美. (2005). 検査・処置を受ける子どもと医療者のずれ. 看護研究, 38(1), 53-63.
- 飯村直子, 檜木野裕美, 二宮啓子, 松林知美, 蛭名美智子, 片田範子, . . . 福地麻貴子. (2002). Wong-Baker のフェイススケールの日本における妥当性と信頼性. 日本小児看護学会誌, 11(2), 21-27.
- 池田彩夏, 小林哲生, 板倉昭二. (2013). オノマトペが示す見た目と触り心地ー日本人 4 歳児によるオノマトペのクロスモーダルな理解ー. 電子情報通信学会, 89-94.
- Imai, M., Kita, S., Nagumo, M., & Okada, H. (2008). Sound symbolism facilitates early verb learning. *Cognition*, 109(1), 54-65.
- Inal, S., & Kelleci, M. (2012). Distracting children during blood draw: looking through distraction cards is effective in pain relief of children during blood draw. *International of Journal of Nursing Practice*(18), 210-219.
- Inoue, T. (1991). Encording activities by preschool children under orienting versus learning instructions: are onomatopoeias associated with more concrete images? *Japanese Psychological Research*, 33(1), 11-17.
- 石橋尚子. (2007). 発達にいかす. オノマトペ《擬音語・擬態語》をいかす クオリアの言語心理学. (丹野眞智俊, 編) 京都市: あいり出版.
- 石橋尚子, 丹野眞智俊. (2004). 幼児の使用する日本語オノマトペに関する基礎研究 (3) . 日本教育心理学会総会発表論文集(46), 1.
- 石館美弥子. (2012). 幼児のプレパレーションに含まれるオノマトペの特徴. 横浜創英短期大学

紀要, 8, 19-24.

石田博子, 小野木雄三. (2006). 擬態語・擬音語に共起する語彙の感覚的分類に関する研究. 情報処理学会研究報告, 21-26.

石垣幸子, 但木由佳, 澤田奈穂美. (2005). 絵本を用いたプリパレーションによる対処行動の比較. 日本看護学会論文集 小児看護, 35, 20-22.

伊藤弘樹, 岡崎章, 恩田浩司. (2008). 小児看護におけるプリパレーション・ツールの開発. デザイン学研究, 55(2).

伊藤弘樹, 岡崎章, 内藤茂幸. (2009). 手軽さと効果を考慮したプリパレーション・ツールの開発. デザイン学研究作品集, 15(15), 78-83.

角岡賢一. (2007). 日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻体系性について. くろしお出版.

金澤實, 桑平一郎, 一ノ瀬正和, 一和多俊男, 井上博雅, 植木純, ... 宮本顕二. (2014年3月). Q&A パルスオキシメータハンドブック. 参照日: 2015年1月5日, 参照先: 一般社団法人日本呼吸器学会: http://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/guidelines/pulse-oximeter_medical.pdf

片田範子. (2000). 子どもの権利とインフォームドコンセント. 小児看護, 23(13), 1723-1726.

加藤令子. (2008). 痛みを伴う治療や検査を受ける年長幼児への「伝え方」に関わる看護援助—子どもが安心していられる関わりとは—. 日本看護科学学会誌, 28(3), 14-23.

勝田仁美, 片田範子, 蛭名美智子. (2000). 検査・処置を受ける子どもの覚悟 検査・手術を受ける子どもへのインフォームド・コンセント—看護の実態とケアモデルの構築—. 平成9・10・11年度科学研究費補助金研究報告.

川口義一. (2000). 「ナラ表現」の「文脈化」と「教材化」. 早稲田大学日本語研究センター紀要, 13, 27-49.

河村昌子, 泊祐子. (2011). 骨髄穿刺と腰椎穿刺を受ける子どもと養育者へのプレパレーションの実践. 日本小児看護学会誌, 20(1), 86-92.

風間敏子. (2008). 観察. 写真でわかる小児看護技術 (初版). (山元恵子, 編) インターメディカ.

Keck, F. J., Gerkensmeyer, J., Joice, B., & Schade, J. (1996). Reliability and validity of the FACES and word descriptor scales to measure procedural pain. *Journal of Pediatric Nursing, 11*, 368-374.

菊池純子. (2012). 非侵襲的陽圧換気法 (NPPV) 導入におけるプレパレーションの効果—幼児期後期の脊髄性委縮症Ⅱ型の患児への介入—. 日本看護学会論文集 小児看護, 45, 41-

44.

- 金明哲. (2009). テキストデータの統計科学入門. 岩波書店.
- 北野景子, 内海みよ子, 和田聖子. (2012). プレパレーションの5段階における看護師の認識と実践の現状. 日本小児看護学会誌, 21(3), 44-51.
- 小林隆. (2010). オノマトペの地域差と歴史ー「大声で泣く様子」についてー. 21-47. (小林隆, 篠崎晃一, 共同編集) ひつじ書房.
- 国立国語研究所. (2014年4月30日). 日本言語地図. 参照先: 国立国語研究所:
http://www.ninjal.ac.jp/publication/catalogue/laj_map/04/
- Kolk, A. M., von Hoof, R., & Fiedeldij Dop, M. J. (2000). Preparing children for venipuncture.: the effect of an integrated intervention on distress before and during venipuncture. *Child Care Health and Development*, 26(3), 251-260.
- 近藤綾, 渡辺大介. (2008). 保育者が用いるオノマトペの世界. 広島大学心理学研究, 8, 255 - 261.
- 近藤綾, 渡辺大介, 越中康治. (2008). 自然体験活動の中で見られる幼児のオノマトペの機能に関する一考察. 広島大学大学院教育学研究科紀要(57), 305-312.
- 近藤陽一, 阪井裕一, 熊谷昌明, 片山正夫, 草川功. (2006年5月). 成長科学協会ホームページ. 参照日: 2014年6月5日, 参照先: 生育治療癌研究指定課題研究報告 小児の発達と疼痛管理に関する研究: http://www.fgs.or.jp/public/05/2006_07.html
- 小関和代. (1984). 幼児期の外科小手術に対する心理的準備. 看護研究, 17(3), 83-91.
- 小谷欣也, 石橋尚子, 横川和章. (2003). 小学校教育におけるオノマトペの有効性の研究 (1)ー授業における教師のオノマトペの使用実態ー. 日本教育心理学会総会発表論文集, 498.
- 熊谷康雄, 井上文子, 大西拓一郎, 沖裕子, 小林隆, 澤木幹栄, . . . 三井はるみ. (2013). 大規模方言データの多角的分析 成果報告書ー言語地図と方言談話資料ー. 国立国語研究所共同研究報告, 12(5), 1-181.
- LaveJ, WengerE. (2013). Situated learning; legitimate peripheral participation. 状況に埋め込まれた学習ー正統的周辺参加. (佐伯胖, 訳) 産業図書.
- Lee, W. L., & White-Traut, C. R. (1996). The role of temperament in pediatric pain response. *Issues in Comprehensive Pediatric Nursing*, 19(1), 49-63.
- Li, W. H., Chung, J. O., & Ho, E. K. (2011). The effectiveness of therapeutic play, using virtual reality computer games, in promoting the psychological well-being children

- hospitalised with cancer. *Journal of Clinical Nursing*, 2135-2143.
- Luffy, R., & Grove, K. S. (2003). Examining the validity, reliability, and preference of three pediatric pain measurement tools in african children. *Pediatric Nursing*, 29, 54-59.
- Manimala, M. R., & Blount, R. L. (2000). The effects of parental reassurance versus distraction on child distress and coping during immunizations. *CHILDREN'S HEALTH CARE*, 29(3), 161-177.
- 丸光恵. (2014). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (第 12 版). (奈良間美保, 編) 文京区, 東京都: 医学書院.
- 松井晃. (2011). パルスオキシメーター. 小児 クリティカルケア看護 基本と実践. (中田諭, 編) 南江堂.
- 松森直美. (2010). 看護師が行う子どもへのプレパレーション実践導入モデルの検討. 平成 21・22・23・24 年度科学研究費補助金 2010 年度研究実績報告書.
- 松森直美, 鴨下加代. (2006). 手術を受ける子どもへのプレパレーションの実践と普及の検討ーキワニス人形と木製模型を用いた方法を試みてー. 人間と科学 県立広島大学保健福祉学部誌, 6(1), 71-82.
- 松森直美, 二宮啓子, 蛭名美智子. (2004). 「検査・処置を受ける子どもへの説明と納得」に関するケアモデルの実践と評価 (その 2) . 日本看護科学学会誌, 22-35.
- 松崎喜代美, 直木久美子, 白山早苗. (2004). 予防接種を受ける小児の紙芝居によるプリパレーション効果. 日本看護学会論文集 小児看護, 34, 20-22.
- Matthews, M., & Silk, G. (1994). *Calico dolls a process of play*. Australia: The kiwanis club Australia. Monash print services.
- Merkel, S., Voepel-Lewis, T., Shayevitz, J., & Malviya, S. (1977). The FLACC: a behavioral scale for scoring postoperative pain in young children. *Pediatric Nursing*, 23, 293-297.
- 美馬のゆり, 山内祐平. (2005). 「未来の学び」をデザインする. 東京: 東京大学出版会.
- 三島由紀夫. (1995). 文章読本. 中公文庫.
- 三浦博美, 竹本三重子, 臼井徳子. (2013). 緊急入院において点滴処置を受ける年長幼児が心の準備をするための看護援助. 日本小児看護学会誌, 22(3), 34-41.
- 三好行雄. (2002). 乳幼児言語研究ー1~2 歳児における発声語の文法的特質②ー. 武蔵野短期大学研究紀要, 16, 25-34.

- 三好行雄. (2006). 乳幼児言語研究—3歳児における発声語の文法的特質②—. 武蔵野短期大学研究紀要, 20, 193-201.
- 守山恵子. (1996). 「体の状態をあらわす擬態語」について—『蕉窓談話』の場合. 国語と教育, 21, 24-32.
- 守山恵子. (2000). 「東郭医談」細野本と大塚本との比較—オノマトペを中心に. 国語と教育, 24, 89-96.
- 守山恵子. (2001). 『方彙口訣』に用いられているオノマトペ—カナ・漢字併用のオノマトペを中心に. 国語と教育, 26, 89-96.
- 守山恵子. (2002). 漢方医学書のオノマトペ. 言語, 31(11), 92-97.
- Movahedi, A. F., Rostami, S., Salsali, M., Keikhaee, B., & Moradi, A. (2006). Effect of local refrigeration prior to venipuncture on pain related responses in school age children. *Australian Journal of Advanced Nursing*, 24(2), 51-55.
- 丸田美雪, 竹之下知恵, 小林幹子, 松本恵子. (2008). 採血のプレパレーションを受けた幼児の対処行動の変化. 日本看護学会論文集 小児看護, 39, 134-136.
- Murphy, G. (2009). Distraction techniques for venipuncture: a review. *Clinical*, 21(3), 18-20.
- 永井洋子, 林弥生. (2004). 子どもの発達—小児をケアするにあたってこころの発達—. 小児看護, 27(9), 1074-1078.
- 長尾一, 箱田光世, 清藤絵里, 渡部賢仁. (2010). オノマトペと標識を取り入れた上部消化管X線検査法の検証. 日本放射線技術学会雑誌, 67(1), 15-24.
- 中原和恵. (2007). 白血病患児の検査, 治療に対する心の準備への支援—人形を用いたプレパレーションを試みて—. 日本看護学会論文集 小児看護, 38, 337-339.
- 中村美穂, 兼松百合子, 小川京子. (1993). 医療処置を受ける小児の痛みの程度と行動に表れる反応. 千葉大学看護学部紀要(15), 45-52.
- 仲尾尚美, 石川綾. (2004). 採血を受ける幼児期患児への絵本によるプリパレーション有効性の検証. 日本看護学会論文集 小児看護, 35, 32-34.
- 檜木野裕美. (2006). プレパレーションの概念. 小児看護, 29(5), 542-547.
- 檜木野裕美, 鈴木敦子, 片田範子. (2000). 検査・処置を終えた子どもの思いに関する研究. 平成9・10・11年度科学研究費補助金研究報告, 51-58.
- 檜木野裕美, 高橋清子. (2002). 子どもに正確な知識をどのように伝えるか. 小児看護, 25(2), 193-196.

- 夏目房之介. (2013). マンガにおけるオノマトペ. オノマトペ研究の射程 近づく音と意味, 183-199. (篠原和子, 宇野良子, 共同編集) ひつじ書房.
- 日本看護協会. (2005). 日本看護協会看護業務基準 2005 年. 日本看護協会出版会.
- 日本看護協会. (2007). 日本看護協会看護業務基準集 2007 版改訂版. 日本看護協会出版会.
- 新村出. (2008). 広辞苑第六版. 岩波書店.
- 西尾恵美. (2010). 採血を受ける幼児への人形を活用したプレパレーションの効果—緊急入院を経験した幼児への実施から—. 日本看護学会論文集 小児看護, 41, 38-40.
- 西崎笑美子, 穴見康代, 小林祐美. (2007). プレパレーションを用いた採血を試みて. 日本看護学会論文集 小児看護, 38, 3-5.
- 小笠原真織, 檜木野裕美. (2013). 採血および点滴挿入時に看護師が“この子ならできる”とアセスメントしてプレパレーションを実践している 2 歳児のすがた. 日本小児看護学会誌, 22(2), 17 - 24.
- 小川鮎子, 下釜綾子, 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子. (2013). 幼児の身体表現活動を引き出す言葉かけ—オノマトペを用いた動きとイメージ—. 佐賀女子短大研究紀要 第 47 集, 103-116.
- 荻野美佐子. (1989). 言語習得における母子の非言語的相互作用の役割. 上智大学心理学年報, 13, 61-75.
- 小椋たみこ, 吉本祥江, 坪田みのり. (1997). 母親の育児語と子どもの言語発達. 神戸大学発達科学部研究紀要, 5(1), 11-14.
- 小椋由梨子, 中井純子, 奥田久美子. (2007). 自宅で行うプレパレーションの効果—幼児の手術前オリエンテーションに用いて—. 日本看護学会論文集 小児看護, 38, 328-330.
- 及川郁子. (2002). プレパレーションはなぜ必要か. 小児看護, 25(2), 189-192.
- 及川郁子, 田代弘子. (2012). 病気の子どもへのプレパレーション (初版). 中央法規.
- 大池真樹. (2007). 手術を体験する幼児への母親への関わり—絵本によるオリエンテーションの母親への影響—. 宮城大学看護学部紀要, 10, 9-15.
- 岡崎裕子, 檜木野裕美. (2010). 検査・処置を受ける幼児の親と医療者との協働に関する国内の文献検討—プレパレーションの視点から—. 日本小児看護学会誌, 19(1), 95-102.
- 小野正弘. (2009). オノマトペがあるから日本語が楽しい 擬音語・擬態語の豊かな世界. 平凡社.
- 小野正弘. (2011). 擬音語・擬態語 4500 日本語オノマトペ辞典. 小学館.

- 荳坂直行. (1999). 感性のことはを研究する 擬音語・擬態語に読む心のありか. 新曜社.
- Piajet J. (2007). Piaget's Story ピアジェに学ぶ認知発達科学. (中西啓, 訳) 北大路書房.
- Rape, R. N., & Bush, J. P. (1994). Psychological preparation for pediatric oncology patients undergoing painful procedures: a methodological critique of the research. *23*(1), 51-67.
- Reeb, R. N., & Bush, J. P. (1996). Preprocedural psychological preparation in pediatric oncology: a process-oriented intervention study. *CHILDREN'S HEALTH CARE, 25*(4), 265-279.
- 李志偉. (2009). 日中両国における広告のキャッチフレーズについて一女性誌と男性誌を素材として一. 銘傳大学.
- 流郷千幸, 古株ひろみ, 東美香. (2004). S県下における幼児の採血場面のプリパレーションと関連要因. 滋賀県立大学人間看護学研究(3), 145-152.
- 斉藤美紀子, 高梨一彦, 小倉能理子. (2010). プレパレーションに対する看護者の認識とその実施状況. 弘前学院大学看護紀要(5), 47-56.
- Sapir, E. (1929). A study in phonetic symbolism. *Journal of Experimental Psychology, 12*(3), 225-239.
- 佐々木美和. (2013). 子どもへの病気・検査・治療などの説明. (原田香奈, 相吉恵, 祖父江由紀子, 共同編集) 医療を受ける子どもへの上手なかかわり方, 日本看護協会出版会.
- 佐藤さやか, 縫田愛. (2012). レントゲン検査を通して検討した対象にあったプレパレーションの活用法一小児科経験年数による分析一. 日本看護学会論文集 小児看護, *42*, 33-36.
- 佐藤志保, 佐藤幸子, 三上千佳子. (2013). 採血を受ける子どもの対処行動を予測するために必要な要因の検討. 日本小児看護学会誌, *22*(1), 9-16.
- 佐藤志保, 塩鮑仁. (2007). 外来で採血を受ける子どもに行うプリパレーションの有効性の検証. 北日本看護学会誌, *10*(1), 1-12.
- 佐藤登志郎, 西本寺克禮. (2005). 医学英和大辞典 (第 12 版). (佐藤登志郎, 西本寺克禮, 共同編集) 南山堂.
- 関あゆみ, 内山仁志, 小枝達也. (2009). 幼児の鎮静下での MRI 撮影のためのプレパレーションに関する検討. 小児保健研究, *68*(2), 285-292.
- Snow, C. E. (1978). Talking to Children: language input and acquisition. *Journal of Child Language, 5*(3), 521 - 530.

- 外賀照実, 松倉とよ美, 松波典代. (2005). 体幹ギブスを装着する幼児のプリパレーション効果の検討—母親へのアンケートと紙芝居中のビデオを分析して—. 日本看護学会論文集 小児看護, 36, 354-356.
- Stinson, J. N., Kavanagh, T., Yamada, J., Gill, N., & Stevens, B. (2006). Systematic review of the psychometric properties, interpretability and feasibility of self-report pain intensity measures for use in clinical trials in children and adolescents. *Pain, 125*, 143-157.
- 杉本陽子, 橋本ゆかり. (2009). こどもが採血・点滴を受けるときのプレパレーションに関する研究. 看護師・医師・家族の考え方と実際について. (蛭名美智子, 編) 3-30.
- 杉本陽子, 前田貴彦. (2004). 子どもが採血・点滴を受けるときの心の準備をする関わり. 平成 14・15 年度厚生労働省科学研究 (子ども家庭総合研究事業) 分担研究「子どもと親へのプレパレーションの実践普及. 医療行為を行う際の子どもの関わりについて」報告, 33-65.
- 鈴木陽子. (2013). インタラクションのなかで使われる「オノマトペ+する」動詞. オノマトペ研究の射程 近づく音と意味, 167-181. (篠原和子, 宇野良子, 共同編集) くろしお出版.
- 橘則子, 宮城由美子. (2014). 診療所で小児外来看護に携わる看護職の「子どもの権利」に対する認識と、幼児への採血方法の実態に関する研究. 日本小児看護学会誌, 23(2), 34-40.
- 田島桂子. (2002). 看護実践能力育成に向けた教育の基礎 (初版). 東京: 医学書院.
- 高橋雅延. (2001). 偽りの記憶の実験のための情動語リスト作成の試み. 聖心女子大学論叢, 96, 133-156.
- 高橋まゆみ, 竹本和代, 矢田昭子. (2008). 外来・病棟・手術部が連携した手術前のプレパレーションの導入の効果. 日本看護学会論文集 小児看護, 39, 152-154.
- 高野美由紀, 有働真理子. (2007a). 重症知的障害児への教育的支援におけるオノマトペの貢献. 学校教育学研究(19), 27-37.
- 高野美由紀, 有働真理子. (2007b). 養護学校の音楽の授業にみられるオノマトペ的要素. 兵庫教育大学研究紀要(30), 39-47.
- 高野美由紀, 有働真理子. (2010). 養護学校の教師発話に含まれるオノマトペの教育的効果. 特殊教育学研究, 48(2), 75-84.
- 竹田晃子. (2012). 東北方言オノマトペ (擬音語・擬態語) 用例集—青森県・岩手県・宮城県・福島県—. 立川市, 東京都: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所.

- 竹田晃子. (2013). 『日本語地図』にみる牛の鳴き声のオノマトペ. 著: 熊谷康雄, 熊谷康雄 (編), 大規模方言データの多角的分析 成果報告書一言語地図と方言談話資料一 (69-80). 国立国語研究所.
- 武田淳子. (1998). 採血に対する幼児の反応・行動に影響を及ぼす要因. 千葉看護学会誌, 4(2), 8-14.
- 玉利さおり. (2013). 国語科学習指導案 図表を用いたレポートを書こう. 参照日: 2014年8月12日, 参照先:
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/cooperation/sidouan/yoshidaminami/h25/kokugo.pdf#search=%E3%82%AA%E3%83%8E%E3%83%9E%E3%83%88%E3%83%9A+%E5%9B%BD%E8%AA%9E%E7%A7%91%E5%AD%A6%E7%BF%92%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88+%E7%94%B7%E5%A5%B3%E5%B7%AE>
- 田守育啓. (2010). オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ. 岩波書店.
- 田守育啓. (2012). 商品および店名・施設名に利用されているオノマトペ. 人文論集, 47, 49-70.
- 田守育啓, スコウラップローレンス. (2011). オノマトペー形態と意味一. (柴谷方良, 西光義弘, 影山太郎, 共同編集) くろしお出版.
- 田中恭子. (2006). 小児医療の現場に使えるプリパレーションガイドブック. 愛知: 日総研.
- 田中恭子. (2008). プレパレーションの5段階について. 小児看護, 31(5), 542-547.
- 田中恭子. (2014年10月). 検査や治療の話を子どもにどう伝えるか. 参照日: 2015年9月3日, 参照先: Growthhormone: <https://www.growthhormone.co.jp/growing.aspx>
- 田中恭子, 南風原明子, 今紀子. (2007). 小児の療養環境における遊び・プレパレーション・その専門家の導入の検討. 小児保健研究, 66(1), 61-67.
- ThompsonHRichard, StanfordGene. (2003). Child Life in Hospitals: Theory and Practice 病院におけるチャイルドライフ 子どもの心を支える“遊び”プログラム. (小林登, 編, 野村みどり, 堀正, 訳) 東京: 中央法規.
- 遠矢浩一. (1993). 障碍児のリハビリテーションにおけるオノマトペの役割一心理リハビリテーションでの訓練過程の分析から一. 上越教育大学研究紀要, 12(2), 269 - 278.
- 遠矢浩一. (1996). 運動障害児のリハビリテーションにおける援助者のことばかけの特徴. 日本特殊教育学会第34回大会, 890-891.
- 坪倉紀代子, 柴真理子. (1998). 文字情報による擬音語・擬態語と動きの想起. 舞踊學(21), 48.
- 坪倉紀代子, 柴真理子, 三宅香, 徳家雅子. (1999). 擬音語・擬態語と身体表現一「ドタ系」を事

- 例として一. 舞踊學(22), 101.
- 有働眞理子. (2007). 感性を身体で表すことば一言語と音楽と身振りが調和する範疇一. 神戸言語学論叢, 5, 217-234.
- 有働眞理子, 高野美由紀. (2007). 養護学校小学部の授業に見られるオノマトペ的発話一対話活性化の言語学的要因一. 学校教育学研究(19), 17-26.
- 上田裕也, 清水裕一郎, 坂口明, 坂本真樹. (2013). オノマトペで表される痛みの可視化. 日本バーチャルリアリティ学会論文誌, 18(4), 455-463.
- 上村浩太, 丸山浩枝, 林裕子. (2006). 看護師のプレパレーション実践認識と関連する要因へプレパレーション普及に向けて～. 日本看護学会論文集 小児看護, 16, 348-349.
- Visintainer, M. A., & Wolfer, J. A. (1975). Psychological preparation for surgical pediatric patients: the effect on children's and patients' stress responses and adjustment. *Pediatrics*, 56(2), 187-202.
- Voepel-Lewis, T., Zanotti, J., Dammeyer, J. A., & Merkel, S. (2010). Reliability and validity of the face, legs, activity, cry, consolability behavioral tool in assessing acute pain in critically ill patients. *American Journal of Critical Care*, 19(1), 55-62.
- Vosoghi, N., Chehizad, M., Abotalebi, H. G., & Roshan, A. Z. (2010). Effects of distraction on physiologic indices and pain intensity in children aged 3-6 undergoing IV injection. *HAYAT*, 16, 105.
- 和田久美子. (2008). 幼児への言語的対応における看護師の特性一保育士との比較を通して一. 小児保健研究, 67(4), 14-23.
- 和田久美子. (2012). 処置・看護ケア場面における幼児に対する看護師のことば. 小児保健研究, 71(1), 85-91.
- Wakimizu, R., Komagata, s., Kuwabara, T., & Kamibeppu, K. (2009). A randomized controlled trial of an at-home preparation programme for Japanese preschool children: effects on children's and caregivers' anxiety associated with surgery. 393-401.
- 桶水理恵, 上別府圭子. (2006). 日本の小児医療におけるプレパレーションの効果に関する文献的考察. 日本小児看護学会誌, 15(2), 82-89.
- West, N., Oaker, L., Hinds, S. P., Sanders, L., Holder, R., Williams, S., . . . Bozeman, P. (1994). Measuring pain in pediatric oncology ICU patients. *Journal of Pediatric Oncology*

Nursing, 11(2), 64-68.

Wong, L. D., & Baker, C. M. (1988). Pain in children: comparison of assessment scales. *Pediatric Nursing*, 14(1), 9-17.

山口求, 光盛友美, 今村美幸. (2010). 乳幼児の小児看護におけるプリパレーションのレジリエンスの効果. 広島国際大学看護ジャーナル, 8(1), 13-25.

山口孝子, 堀田法子, 下方浩史. (2009). 主成分分析による幼児へのプレパレーションの影響要因に関する研究. 小児看護学会誌, 18(2), 1-8.

山本ことみ, 島村歩, 藤岡恵美. (2012). 点滴を受ける患児へのDVDによるプレパレーションの効果. 日本看護学会論文集 小児看護, 42, 37-39.

山崎千裕, 尾川瑞季, 池田友美. (2004). 入院中の子どものストレスとその緩和のための援助についての研究—第2報プリパレーション(心理的準備)について—小児科病棟看護職員への調査—. 小児保健研究, 63(5), 501-505.

Yoo, H., Kim, S., Hur, H. K., & Kim, H. S. (2011). The effects of an animation distraction intervention on pain response of preschool children during venipuncture. *Applied Nursing Research*, 24, 94-100.

吉田麻衣子. (2008). 男女差の視点から見た日本語オノマトペ雑誌における検証—. 東アジア日本語教育・日本文化研究(11), 47-56.

吉田美幸, 檜木野裕美. (2012). 看護師が捉える点滴・採血を受ける幼児後期の子どもの自己調整機能. 日本小児看護学会誌, 21(2), 1-8.

吉田美幸, 鈴木敦子. (2009). 検査・処置を受ける幼児後期の子どもが必要としている母親の関わり. 日本小児看護学会誌, 18(1), 51-58.

吉本瑞穂, 高窪美智子, 田中栄子. (2004). プリパレーションを導入した術前オリエンテーションの効果—ソケイヘルニア根治術のプリパレーションツールの開発—. 日本看護学会論文集 小児看護, 34, 23-25.

吉村浩一, 関口浩美. (2006). オノマトペで捉える逆さめがねの世界. 法政大学文学部紀要, 54, 67-75.

謝辞

本研究を進めるにあたり、調査にご協力いただきました幼児とその保護者の皆様、看護学生の皆様、看護師および医師の皆様、各医療施設の病院長、看護部長、職員の皆様、看護基礎教育機関の諸先生方、すべての方々に深く感謝申し上げます。

本研究をまとめる過程において多くの方々のご指導をいただきました。指導教官である神奈川大学 瀬戸正弘教授にお礼を申し上げます。研究過程において、和光大学 伊藤武彦教授には多大なご指導、ご助言を賜りました。心より感謝申し上げます。

研究遂行ならびに論文執筆にあたり、常にあたたかい励ましとご指導をいただきました元東京大学 大山正教授には心より感謝申し上げます。また、大山人間科学研究会の皆様には定例会等で貴重なご助言をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

因子分析および細かい分析検定において、多大なご指導をいただきました独立行政法人大学入試センター研究開発部 宮埜壽夫教授に深謝いたします。

また、本研究を進めていく上で、貴重なご助言と多大なご協力をいただきました東京大学 平田佐智子先生、よしむらこどもクリニック 吉村公一院長、武蔵野赤十字病院 大柴晃洋小児科部長に深く感謝申し上げます。

博士課程3年次、介入実験の分析と考察で新たな視点でご指摘をくださった神奈川大学 前原吾朗准教授に深謝いたします。また、応用実験心理学分野、臨床心理学分野の大学院生の方々との交流が刺激となり、論文執筆に向けて力強く進むことができました。

最終段階における実験結果の分析においてご指導いただきました同大学 斎田真也教授には、様々な角度からご助言を頂戴しました。例年にない酷暑の夏季にもかかわらず快く指導時間を割いてくださいました。心よりお礼申し上げます。また、最終年度、同大学 和氣洋美教授からいただきました労いの言葉を励みに最後まで辿り着くことができました。

さらに、学位論文審査においてご指導を賜りました同大学 杉山崇教授、健康科学大学 竹村真理教授、同志社女子大学 眞鍋えみ子教授に厚くお礼を申し上げます。

最後に、研究生生活をあたたかく見守り応援してくれた家族に心から感謝の意を表します。

本研究は平成24年～26年度文部科学省科学研究費（挑戦的萌芽研究、課題番号：24660030）の助成を受けたものです。

平成28年2月13日

石 舘 美 弥 子

【付録】

付録 A 研究 1 の施設への依頼状

平成 24 年 5 月 18 日

■■■■■■■■■■ 病院
副病院長・看護部長 ■■■■■■ 様

横浜創英短期大学 石舘 美弥子

調査研究へのご協力をお願い

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

早速でございますが、先日ご連絡させていただきました研究につきまして、お願い申し上げます。

このたび、「医療処置を受ける幼児の対処能力を高める感性的言語の研究」というテーマでインタビュー調査を実施することとなりました。

つきましては、下記資料一式を同封いたしますのでご検討いただければ幸いに存じます。

ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、なにとぞご高配くださいますようお願い申し上げます。

[同封資料]

- ・ 倫理審査申請書
- ・ 研究実施計画書
- ・ インタビューガイド
- ・ ご協力をお願い
- ・ 研究参加についての同意書
- ・ 研究参加可能日について

【連絡先】

石舘美弥子

〒226 - 0015

横浜市緑区三保町 1 番地

横浜創英短期大学 看護学科

TEL 045-922-5641 (代表)

045-922-6289 (直通)

E-mail



「医療処置を受ける幼児の対処能力を高める感性的言語の研究」
ご協力をお願い

【研究の目的】

小児医療の現場では、幼児に対して頻繁に用いることばにオノマトペがあります。オノマトペとは、実際に存在する音に真似てことばとする擬音語、視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象をことばとする擬態語のことをさします。注射や採血は「ちっくん」、血圧測定は「まきまき」「シュポシュポ」などがその例です。オノマトペは、言語能力の未熟な幼児にとって、感性的に理解できることばといえます。しかし、この感性的言語の使用実態はまだよくわかっておりません。そこで今回、子どもに対する具体的なことばモデル開発のための第一段階として、幼児に使用していることばについて調査することになりました。このオノマトペを活用したことばのマニュアルを作成することで、小児医療現場において幼児への説明が容易となり、幼児自身が安心して医療処置を受ける行動に役立つものと期待されます。

研究の方法などは以下に記されています。この文書と口頭での説明を受け、ご協力いただける場合は添付されている同意書にご署名をお願いいたします。この研究に参加することに同意しない場合でも何ら不利益を被ることはありません。

【研究の方法】

この研究は、小児病棟に勤務する看護師、保育士、チャイルドライフスペシャリストを対象として、小児医療の現場で使用されている難解な医療用語を幼児用に変化させていることばを調査し、オノマトペ（擬音語・擬態語）の使用実態を明らかにするために行うものです。

ご協力していただきたいことは以下の内容です

○ 面接調査（約 30 分、1 回）

医療処置場面で、あなたが入院している子どもに対して使用していることば（オノマトペ）についてのお話を伺います。お話の内容は IC レコーダーに録音させていただきます。録音されることを望まれない場合は、いつでもおっしゃってください。その場合は、録音せずに代わりにメモを取らせていただきます。面接は静かなプライバシーの守られる場所で行います。また、話したくないことについてはお話にならなくて結構です。途中で気分が悪くなった場合は直ちに中止し、適切に対応いたします。

【倫理的配慮】

- ・ この研究に参加することに同意しない場合でも何ら不利益を被ることはありません。また、一旦同意した後でも、いつでも参加を取り消すことができます。
- ・ 結果を学会や学術雑誌などに発表することがありますが、その時には個人を特定できないようにし、個人情報保護いたします。
- ・ 情報は厳重に管理し、研究の目的以外には一切使用いたしません。また、研究の終了をもちまして、録音データなどの資料は破棄いたします。
- ・ 本研究は、横浜創英短期大学倫理審査委員会の承認を受けて実施されます。


説明者氏名

○ 疑問や質問等がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

連絡先 : 石舘 美弥子
横浜創英短期大学看護学
科

住 所 : 〒226 - 0015
横浜市緑区三保町 1 番地

TEL : 045-922-5641 (代表)
: 045-922-6289 (直通)

E-mail : 

研究への参加についての同意書

私は、研究計画名「医療処置を受ける幼児の対処能力を高める感性的言語の研究」に関する以下の事項について説明を受けました。

- 研究の意義および目的
- 研究の方法
- 予測される研究の結果
- 研究期間
- 研究を実施する研究者
- 研究に関する資料の開示について
- 研究への参加の任意性(研究への参加は任意であり, 参加しないことで不利益な対応を受けないこと.
また, いつでも同意を撤回でき, 撤回しても何ら不利益を受けないこと.)
- この研究への参加をお願いする理由
- 研究により期待される利益について
- 研究への参加に伴う危険または不快な状態について
- 個人情報の取り扱い (被験者のプライバシーの保護に最大限配慮すること)
- 研究終了後の対応・研究成果の公表について
- 研究のための費用
- 研究への企業・団体等の関与
- 研究に伴う補償
- 知的財産権の帰属
- 問い合わせ先・苦情等の連絡先

これらの事項について確認したうえで、この研究に参加することに同意します。

平成 年 月 日

被験者署名・捺印または記名・押印 _____ 印

本研究に関する説明を行い、自由意思による同意が得られたことを確認します。

説明担当者 (所属・職名・氏名) _____ 印

インタビューガイド「医療処置を受ける幼児の対処能力を高める感性的言語の研究」

お忙しい中、調査にご協力くださいまして、ありがとうございます。

それではまず、あなたご自身についてお伺いします。こちらの面接フォームの黒枠の中を、差し支えない範囲でご記入をお願いします。

今回の調査では、いくつかの医療処置場面において、あなたが幼児に対して説明していることばについてお話を伺います。医療処置は全部で7項目です。バイタルサイン測定、採血、吸入療法、吸引、点滴、腰椎穿刺、骨髄穿刺、になります。以上の医療処置ですが、あなたがこれまで幼児に対応した経験があるかについて、教えてください。

これから医療処置7項目について1つずつお伺いしますが、インタビューを録音し、後ほど書き起こしに使用させていただきます。内容を把握するのは研究メンバーのみで、個人情報公表することはないことを再度申し添えさせていただきます。録音は差し支えないですか？

それでは、こちらの絵をご覧ください。幼児期の子どもを描いたものです。これから、医療処置場面を順にお見せしますので、あなたが実際にこの幼児に説明することばを具体的にお話してください。

例えば、採血の場面で「これからチクンするけどいい？じゃあ、こっちの手をギューンとだしてくれる？」といった流れでお話してください。

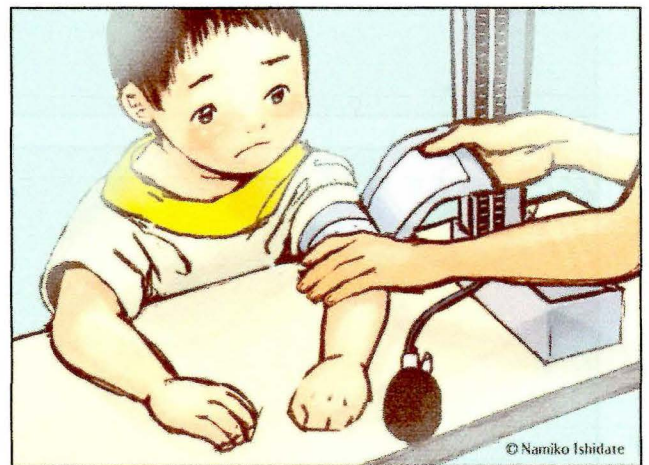
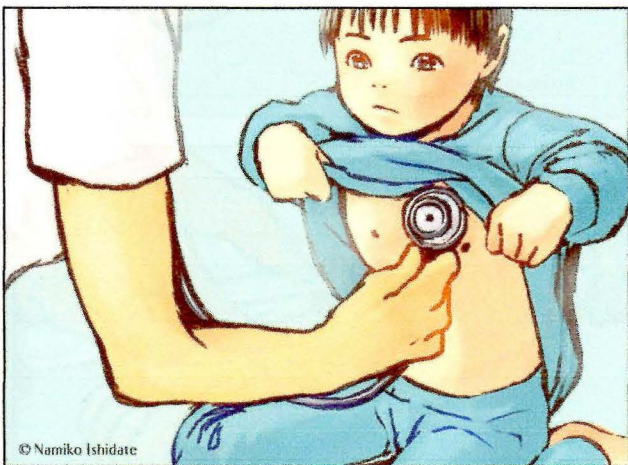
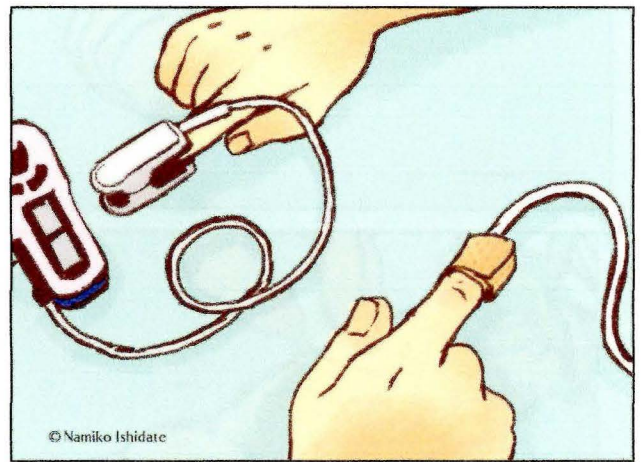
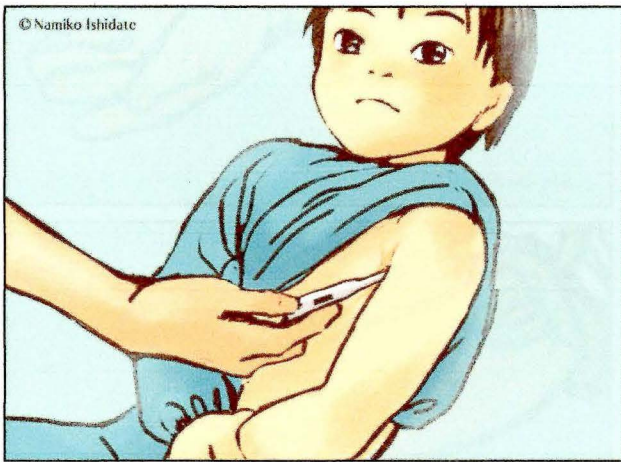
では、録音を開始します。

1. まず、「バイタルサイン測定」です。
2. では、「採血」です。
3. では、「点滴」です。
4. では、「吸入療法」です。
5. では、「口鼻腔吸引」です。
6. では、「腰椎穿刺」です。
7. 最後に、「骨髄穿刺」です。
8. その他の場面で、あなたが幼児に説明していることばで何か思い当たるものがありましたら、なんでも教えてください。

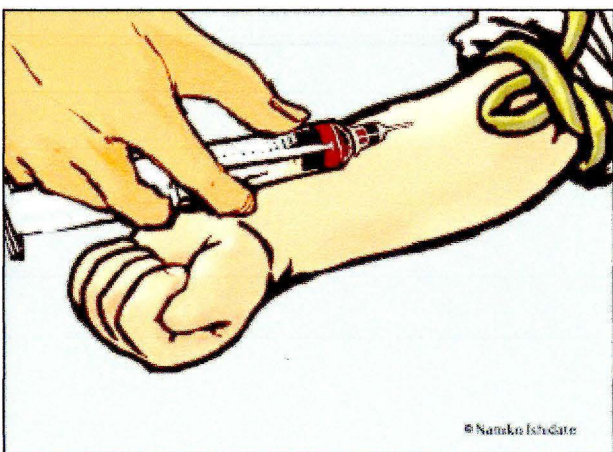
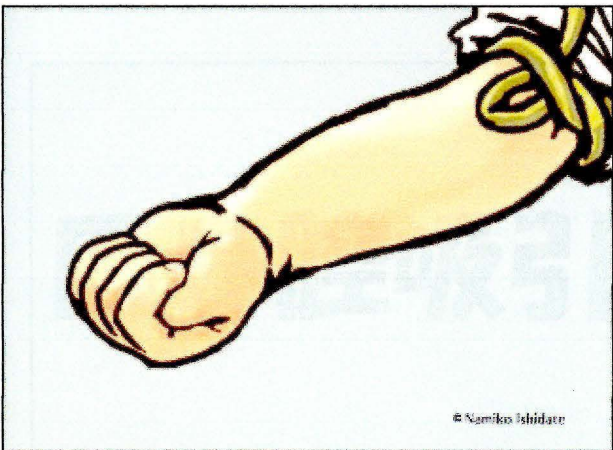
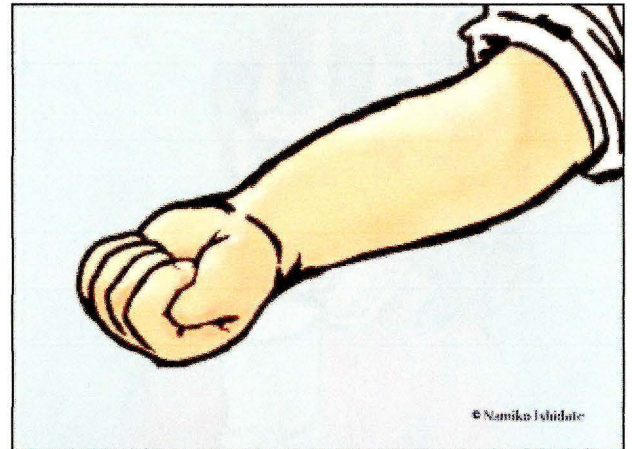
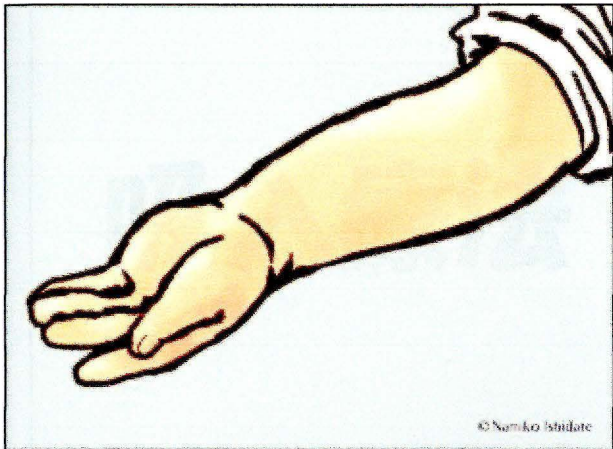
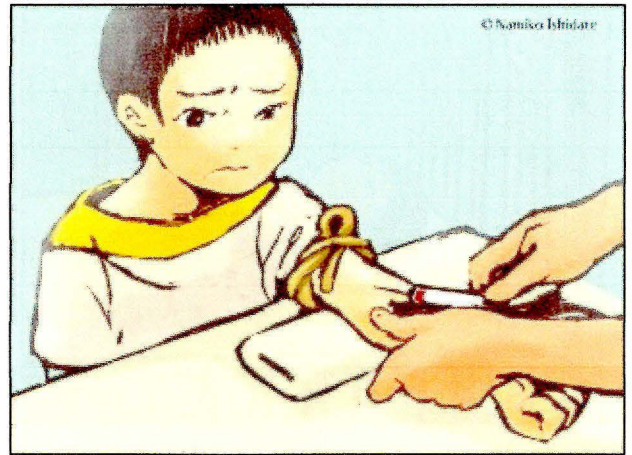
以上でインタビューは終わりです。ご協力ありがとうございました。後ほど、インタビューの録音を書き起こして、他の方のインタビューと合わせて分析します。その際に、インタビューで聞き漏らしたことがあれば再度質問させていただくことは可能ですか？

その場合の連絡先を教えてください（名刺、電話番号、電子メールなど）。

バイタルサイン 測定



採血



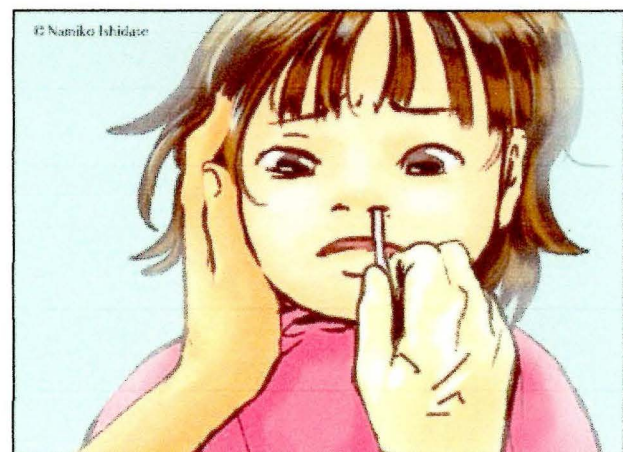
点 滴



吸入療法



口鼻腔吸引



腰椎穿刺



骨髓穿刺

